

(事務局 高庭) 皆さん、こんにちは。

定刻となりましたので、令和5・6年度大田区自立支援協議会、第2回本会を始めさせていただきます。

本日、進行役を務めさせていただきます、障がい者総合サポートセンター、支援調整担当係長の高庭です。よろしくお願いいたします。

なお、本日は、記録のため写真撮影と録音をさせていただきますので、ご了承ください。

それでは、始めに、大田区自立支援協議会、名川会長よりご挨拶を申し上げます。

(名川会長) これでしゃべって大丈夫そう。いいですか。

名川と申します。本日は、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

お手元にあります、中間報告書の冊子にもございますけれども、今回は、2か年で1期とするように制度を変えてから最初のこの中間報告ということになります。これまでは、1年間のサイクルの中で慌ただしく議論をしていたところを、今度は、中間期間、この評価を受けて、次年度、さらにどうやっていくかということについて検討できるようになりました。

今回の協議会の中では、その辺の意味付けも踏まえて、皆さんには、ご検討をいただきたいと思っております。

それで、このことについて運営協議会のメンバーでも話し合いを行いまして、通常とは異なった自立支援協議会全体会の在り方にしてはどうかというご意見が出たところで、大田区の方々は大変に柔軟でして、では、このようにすれば良いのではないかという、その効果を重視した仕組みを提案してくださいました。

というふうに言っているのは、実は、私、別の同様な会議にも参加しておりまして、そちらのほうは、とても何ていうのか、形式を重んじるのか、あまりいいことだからといって、じゃあ、やってみようという感じにならない場所もあるんですね。

それを考えますとうまくいくかどうかは、これから今日、試されるわけですが、いずれにしても良いことであればやってみようという気持ちで、皆さん、取組んでいただいているのは、非常にいいことだなと考えております。

あとは、皆さんが、ただ単にこの自立支援協議会全体会を何となく聞いて終わりにするのではなく、みんなでいろいろと話合って、次年度に向けて検討が進められればいいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局 高庭) 名川会長、ありがとうございます。

続きまして、障がい者総合サポートセンター、杉村所長よりご挨拶をさせていただきます。

(杉村所長) 皆様こんにちは。障がい者総合サポートセンター所長の杉村でございます。

本日は、本当に寒い中、また、年度末のお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症に翻弄されまして、思うような協議会の活動がで

きず、委員の皆様には、とても残念な思いをさせてしまっていたかと存じます。

今期は、久しぶりに制限のない形で協議会活動をスタートすることができました。委員の皆様には、課題に対する検討を活発に行っていたいただいていることと思います。

来年度は、政策面では、大田区基本構想をはじめ、大田区地域福祉計画、おおた障がい者施策推進プランなど、新たな計画がスタートいたします。

また、福祉の現場では、医療、介護、障害福祉の3つの報酬が改定される6年に一度のトリプル改定の年となります。

今後、地域包括ケアシステムのさらなる推進に向けて、各分野間の連携体制の構築が評価される内容になっているようですが、大田区自立支援協議会でも、福祉を取り巻く状況の変化に応じ、他分野や他会議体との連携など、柔軟に検討を重ねていく必要があると感じております。

今、名川会長のほうからもお話をいただきましたが、区としても、やってみようという気持ちで、皆様と共に引き続き考えてみたいと思っております。よろしく願いいたします。

今回の中間報告は、1年間の活動のご報告に加え、次の1年間に向けての大切な指標になるものであると考えます。それぞれの分野での検討をより良いものにするためにも、活発なご意見の交換をいただけることが、とてもうれしく思います。どうぞ活発な意見交換が行われることを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

(事務局 高庭) 続きまして、事務局から配付資料の説明と事務連絡をお願いいたします。

(事務局 山ノ内) 事務局を務めさせていただいております山ノ内です。よろしく願いいたします。

お手元の資料をご確認ください。本日の次第と資料番号1と記載されていますワークシートと令和5・6年度大田区自立支援協議会中間報告書と次期おおた障害施策推進プラン案の概要版を配付しております。

また、その他配布物としまして、おおたTSネット、おおた社会福祉士会ジョイントセミナーのチラシと喀痰吸引の研修のお知らせのほうを配付させていただいております。過不足等ございましたら、事務局までお知らせください。

引き続きまして、本日の会議の出欠を確認させていただきます。本日、定森委員におかれましては、欠席のご連絡をいただいております。

また、本日の会場レイアウトですが、各専門部会ごとにグループになってご着席いただいております。前方スクリーン側から見て、一番右が相談支援部会、真ん中が地域生活部会、一番左が防災・あんしん部会となっております。

最後に、記録のため、ご発言の際は、必ずマイクを使い、名前をおっしゃってから発言するようお願いいたします。

事務局からは、以上です。

(事務局 高庭) それでは、ここからの進行は、山根副会長にお願いしたいと思います。山根副会長、

よろしくお願いいたします。

(山根副会長) 皆様、こんにちは。大田区手をつなぐ育成会の山根と申します。本日は、よろしくお願いいたします。至らない点もあるかもしれませんが、この先の進行を務めさせていただきます。着座にて失礼いたします。

それでは、次第の2、中間報告に入りたいと思います。

今回は、各部会からの報告の後、部会ごとに意見交換を行う予定となっております。意見交換につきましては、後で説明をさせていただきます。

それでは、相談支援部会、神作部会長、どうぞよろしくお願いいたします。

(神作部会長) 皆様こんにちは。相談支援部会長の神作でございます。何かいつもと違う協議会の雰囲気が始まっていて、若干緊張しているところもありますけれども、たくさん意見を出し合いながら、できる形だといいなと思いながら進めさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

せっかくこのような形なので、ちょっと着座にて、すみません、失礼させていただきます。

まず、相談支援部会のほうから報告をさせていただきたいと思います。10分ぐらいのお時間でというふうに聞いておりますので、今日、私だけでなく、せっくなので部会の皆さんからも少し話していただきながら、お願いできればというふうに思っております。

まず、中間報告のほうにもございますけれども、相談支援部会の取組むテーマということで、これは、ある意味この数年と言ってもいいかもしれないんですが、普遍的なテーマということで、今、取組ませていただいております。かなり大きなものになりますが、個別支援会議から地域課題を抽出し、検討するということ。

地域には、たくさん障がいのある方たちの生活があり、それぞれのお困り事があり、皆さん、本当にそれぞれだと思わすけれども、その方個人個人の課題というのは、読み替えると、その地域における課題というふうにも言えるのではないかということが、このテーマの選定というふうになっております。

ですので、ある個別のケースから見えてくる地域の課題、その後ろに潜む地域の課題は何だろうかという目線で地域課題を抽出するということ。この地域課題の内容というのが、恐らくそのときそのときで異なってくると思いますので、そこについて相談支援部会で検討していくということになるかと思っております。

もう一つのテーマは、大田区の相談支援体制を検証するというので、相談支援の体制について常に見守っていく、検証する、考えていく、そういったことがテーマということで、相談支援部会としては、この二つのテーマに取り組んでおります。

7ページの下の部分にあるんですけども、まず、個別支援会議から地域課題を抽出するというので、様々なケースがあると思わすけれども、その中でも、大きなテーマとして連携というもの

に重きを置いているテーマということになっております。

あるケースということで出てきた個別支援会議なんですけれども、事例としては、この下にちょっと書かれておりますけれども、高校生の方、愛の手帳3度の高校生の方とお父さん、お母さん、お姉さんとそのご本人、4人暮らしのご家族がいましたが、いらっしゃるんですけれども、このご家族から見えてくる複合的な課題は何だろうかということで検討しました。

ここには書かれておりませんが、簡単に様子を申し上げますと、お父様が精神的な病気がある方、お母様は外国籍の方で、ご本人には、愛の手帳がある。そういったご家族ということになるんですが、このケースは、皆さんと一緒に相談支援部会のほうでどんなケースなんだろうかということでアセスメントを深めていく中で、そこから見えてきた地域の課題ということで抽出してみました。

次のページ、8ページになりますが、ここから山本委員のほうから、ちょっと報告をさせていただきます。

(山本委員) こうじや生活支援センターの山本と申します。よろしく願いいたします。私も着座にて、失礼いたします。

今、神作さんのほうから地域課題を抽出してというところで、ごく簡単な家族構成等々のお話があったんですけれども、お母様が外国籍の方というところで、言葉も日本語がすごく流暢というわけでもない。

だけれども、その言葉だけということではなくて、お母様の母国のほうでの文化というのもあって、日本人だからと一概にも言えないんですけれども、日本人同士というのであれば、何となく環境、どんなふうに家族が過ごすものなのか、どういう所に行くのか、コミュニティはどうであるのかというのが、何となくのイメージが付いたとしても、全く国が違くと環境も違うという所だと、お母様のほうでも、お困り事はあったとしても、日本人が想定するような困り事、困りポイントというのが、必ずしも合ってはいない。

または、日本国内であれば、こういうふうな困り事が起こりうるんじゃないかということも、ご本人からは、言葉が通じないから出てこないというよりも、それを困り事として捉えてない可能性もあるというところで、文化的な背景というのも想定した支援が必要なのではないかというところと、あとは、お父様は、先ほどお話があったんですけれども、何らかの精神疾患系がありそうなんだけれども、本当にあるのか、どこに通院されているのか。恐らくお母様としては、デイケアに行っているようなんだけれども、どこのデイケアなのかだとか、デイケアに行くと言って朝5時に出ると。朝5時からやっているデイケアはどこだみたいなどころとかというのが、分からない状況。

ただ、その状況を、お母様のほうでは、そこが困っているんですよみたいのは出てこない。なんだけれども、今度、お子様のほうで、お姉さんのほうですね。お姉さんがそういうお父さんに対して、良くは思っていない。

だけれども、それがまだ、表面化というか、どうにかしたいみたいな発信がない状況というのだ

と、その家族関係の破綻というのも、この先には、起こりうるかもしれないけれども、現在は、そこまででもない。

それで、その状況で発信もないし、まだ、そこまででもないレベルで、適切な支援機関、ほかの所にどうつなげていいのか、つなげる必要があるのか、その時点で予防的とはいっても、ご家族のアプローチをほかの所で一緒に進めていいのかも分からないし、どこに言えばいいんだというのもあったりはして。

そういったときに、支援者のほうでどこを思っている時点で、実際の当事者さんたちが、さらに分からないようにというのがありますし、何となくここに相談していいのかなと思ったとしても、その時点で、まだ連携を取ったことのない場所とかだと、支援者も連絡するのに1回躊躇しちゃうというのだと、関係性というのをまず作っていかねばいけませんし、連携という言葉も本当に、個々、皆さんがよく使われる言葉ではあるんだけど、それぞれの思う連携というの、何をもって連携とするのか。良い連携とはということころにも、お話が膨らんできてということころではありました。

なので、まずもって、相手のことを知るといのが大事だよというの、それだけに集約するわけではないんですけども、その点に重きを置いて、地域課題としては話が進んでいった形にはなっていました。

以上です。

(神作部会長) ありがとうございます。今、山本委員のほうから報告させていただきましたが、ちょっとここに書かれておりますけれども、外国籍の方へのケースとしての課題だったりですとか、今現在、緊急性があるわけではないですけども、予防的な支援、あるいは将来起こりうることに備えた支援ということが、今回、連携のテーマとして挙がってきたところになります。

その辺を踏まえてなんですけれども、連携をするというの、今、山本さんがおっしゃられたとおり、様々な連携のイメージといいましようか、方法といいましようか、あるかと思うんですけども、予防という意味で言うと、支援者同士が何かがあったときのために知っておくこと、つながっておくこと、そういったこともできればいいのではないかとということも含めて、相談つながるカフェというのを開催しました。

様々な形で障がいの方に限らず、例えば、生活困窮の方のご相談だったり、今出ましたが、外国籍の方からのご相談を受けていたり、あるいは子どもさんの相談を受けていたりという、様々な立場で相談ということに携わる方たちを多くの方に集まっていたいて、部会の中にちょっと開催してみましたので、そのときにどんな意見が出たかと、こんな感じでしたという感想を含めて、ちょっと椿山委員のほうからご報告させていただきます。

(椿山委員) 池上福祉園、椿山です。よろしくお願いたします。座らせていただきます。

相談つながるカフェの開催ということころですけども、区内のいろいろな機関の皆様が集まって

いただいて、最初に、自己紹介、自分の機関の役割等を含めてお話を順番にしていって、そこで大分時間をかけていって、実際、グループワークとしては、短時間だったかもしれないんですけども、グループで少しお話、意見交換を深めていったってところで、ちょっと意見、抜粋ですけども、お伝えさせていただきます。

話した内容としましては、相談を受ける上で意識していることだったり、悩み、こうなったらいいなというところでしたけれども、少し読ませていただきます。

意識していることでは、先を見据えた助言、地域とつながる暮らし、力を引き出す関わり、コミュニケーションの取り方、丁寧につないでいく関係づくり、決め付けない、プライバシーへの配慮、365日通じての支援、知ったかぶりをしない、悩み、と連携と情報共有の難しさ、ライフステージの変化による支援の切れ目、外国籍への対応、制度の限界、医療と福祉の連携、外国籍の方への対応、相談員のケア、こうなったらいいな、誰でも話せる場所づくり、ワンストップの相談場所、早めに支援機関同士もつながれる環境、介護と障害の一本化、制度面についてです。包括的なネットワークづくり、多職種で話ができればというところで意見が出ておりました。

やってみて、少し感想を伝えさせていただきますと、すごく良かったなというのが率直な素直な感想です。どんな形でも相談を受けるということに携わっている人たちがつながれるということは、すごく相談を受ける側としても、安心できるなということを感じましたし、そういう場を求めている相談を受ける人たちも多いんじゃないかなと感じました。ケースも多様化している中で、必要な機会だったなと思ったところです。

今後、それが福祉人材育成交流センターへ引き継いで、また、このような機会は設けていくということになっております。

(神作部会長) ありがとうございます。椿山さんのほうから報告をいただいたんですが、皆さん、よろしければ、中間報告書の10ページをちょっとご覧いただけますでしょうか。本当にせっかく多くの機関に集まっていたので、10ページを見ていただくと、そのときに参加してくださった機関と主な業務ということで、本当は、このような短い文章でまとめられる業務ではないかと思うんですが、本当に短くまとめたものになるんですが、こんなことをやっている人たちがいるんだということ。

例えば、この1枚だけでも、この後、何かこんなことが起こったときにつながる相手として、もしかしたら、可能性がある方たちということと、ある意味つながれたのではないかなというふうに思っております。

それで、このような会を開催しております。今、前期が、2年任期の中の前半が終了したところなんですけど、この後に向けてということなんですけれども、相談支援部会としても、その連携というものの言葉の意味だったりですとか、方法だったりですとか、そういったところを、まだまだこれから調べていくことだったり、知ることだったり、連携相手を考えることだったり、そういっ

たことは引き続き取り組んでいきたいなというふうに思っております。

若干長くなってしまって申し訳ありません。相談支援部会からは以上になります。

(山根副会長) ありがとうございます。

ここで質問や確認しておきたいことがありましたら、挙手をお願いいたします。

(なし)

(山根副会長) よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、地域生活部会、伊藤部会長、どうぞよろしくをお願いいたします。

(伊藤部会長) はい、こんにちは。ナイスケアの伊藤と申します。地域生活部会の部会長を5年度と6年度も引き続きさせていただいています。よろしくをお願いいたします。

そうですね、ほかの人に振って良かったんですね。僕一人でやるつもりで、ちょっと構成を考えれば良かったなと思いながら、今、あれです。

まず、11ページから私たちの部会の情報という形になっています。メンバーは、このような形で、昨年度から結構引き続いて来ていただいている方が多いので、令和3年度・4年度が、「希望する暮らしの実現」という形のテーマを設定していて、動いていたんですね。

それで、令和5年度・6年度の活動については、そこからつながるところで、3年度・4年度、たしか理解・啓発が最終的には、何かちょっと定番的なところになっていたんですが、そこをじゃあ、どういうふうに進化させるとか、進歩させようかというところで、令和5年度・6年度についてのテーマももう一回考えましょうということで、今度は、「10年後も住み続けたい大田区」ということで、世代を超えて知る機会をと、まあ、理解・啓発なんで、知る機会をとという言葉サブタイトルで付けてという形で、私たちは、今動いているという形です。

それで、じゃあ、5年度は何しようかというところで、ちょうど実態調査が、大田区が令和4年に行っていたので、その中からいろいろちょっと、こちらの理解・啓発に該当しそうなことをいろいろとみんなで見ていたんですね。

それで、じゃあ、その結果を見ている限りでいくと、やっぱり人がつながる、その人からの情報というのと、もう一つは、紙媒体とか、デジタル媒体とかを使った情報を取るということが目に見えていたので、人に関しては、いろいろと出るでしょうということだったんですけど、そちらよりも先に、じゃあ、紙媒体・デジタル媒体についても、ちょっと検討しようということで、今回は、令和5年に関しては、デジタル媒体とか、紙媒体についてのことを、ちょっとアンケートを採ってみましょうということで、15・16ページに資料的に載せてあるんです。このような形で地域生活部会のアンケートをさせていただきました。

部会に所属する方の周りの方に採っていただいたんですけど、結構採れました。217名回答していただいて、かなりアンケートとしては、それなりの結果を採れるような数は採れたので、私たちとしても、ちょっとびっくりしてはいたんですけど、皆さん、積極的に参加してくださいまして、内

容としては、ご自身が大田区で行っている福祉に関する情報を取得する場合というところで、紙媒体なのか、デジタル媒体なのかというところとか、あとは、今後、どんなような形でその情報を得るためには、どのような媒体を利用したいですかというようなことを確認するようなことを採っていました。

なので、ちょうど今、スライドに出ているところで言うと、3番目のところですかね。ごめんなさい。2個目が、大田区の実態調査を参考にというところで、今言ったとおり、理解・啓発というところから、人からの情報収集と様々な媒体からの情報収集の多分2形態でしょうということをもまず整理したということと、その後、独自のアンケートを作ったというところの今、お話をさせていただきました。

それで、今、独自のアンケートから見えてきたことというところで、紙媒体とアナログ媒体ともに、活用されている方が多かったよねというところで。

じゃあ、どんなような感じでしたのかというところで、このような考察をしてみました。一つ目が、アナログもデジタルもというところで、情報を得るにあたって、区報とか、障害福祉のあらましというところを使っていらっしゃる方もいらっしゃるし、区のホームページ、あとは、いわゆる旧ツイッターと言われるXのほうのデジタル媒体も、様々な年代の方たちが結構使っていますよということが見えてきました。

それで、その後、情報の内容としては、どういうことを知りたかったかという、大体、本当は、人でつながることが一番情報としては取りやすいんですけど、それとは違う視点でどういうふうにするかによって、情報の整理が必要かなというところをちょっと確認を取れたということですね。

そして、3つ目が、行政・地域との連携というところで、独自のアンケートから見えてきた内容としては、今後の情報共有の参考にしてもらいたいということで、これを採ったことによって、じゃあ、大田区の人たちというか、行政の方たちが参考にさせていただければいいかなというところで、このことをやったというのとプラス、あとは、地域の人たちにも、こういうような情報をどういうふうにしたらいいかというところを知ってもらえるといいよねというところから、こういうような行政とか、地域との連携ができたらいいなという話が、アンケートとかから出てきました。

そして、最後、アンケートから最終的な考察というところですね。今後、多分、アナログとか、デジタル情報とかを多分つなげていかないと駄目だよねと。

例えば、結構、区報とかにはQRコードとか、そういうのが載っているんですけど、それは、ちょっと意外に見づらかったりとかというのがあったりとか、知らない人とかも結構いらっしゃるのかするので、その辺がもう少し分かりやすくなったりとかするといいねなんて話が、このアンケートの中からは見えてきたというところでした。

次のページ行って、じゃあ、私たち、6年度をどういうふうに活動していこうかという話をしています、最初に言ったとおり、人からの情報収集をキーワードにしようと言ったのです。多分、

いっぱいあり過ぎて、どうしたらいいんだろうねという話をしたんです。人って、結構媒体となつて、つなげることはしやすいんですけど、かなりいろんな情報が出てきちゃうんじゃないかというところで、その辺をどういうふうに整理して、今回、6年を活動していくかというのが、まだ、ちょっと見えてない段階で、皆さん、そのまま2年任期なので、5月とか、6月ぐらいで、もう一回整理をしてやらなきゃいけないんですけど、どういうふうに人からの情報収集というのを整理したらいいかねというところを、もう一回、ちょっと検討し直さなきゃいけないというところがあります。

それで、その中で、ちょっと問題になっていくと思うのが、もしかしたら、情報を取りたいという人と別に、情報は要らないよという人とかもいるかもしれないよねという話もあるので、その辺も踏まえて、いろいろと整理をしていかなきゃいけないのではないかと。

それで、部会の中には、相談支援専門員の方もいるし、社協の方もいるし、就労施設の相談員の方とかもいらっしゃるんで、いろんな人から、学校の先生も、相談員の方もいらっしゃるし、PTAの人とかもいっぱいいるので、そういう意味では、そういう人たちからいろいろと話を聞いて、もう一度ちょっと人からつながる情報って、どういうところなのかなというところを整理できたらいいなというふうに、今、思いながら動いているような形です。

そのような形でやろうとは思っているんですが、ちょっと人から情報収集についてのキーワードにして、ちょっと錯綜しそうだってところがあるんで、もし、良ければ、皆さんから何かほかの部会の方から、こういうことをやったらいいんじゃないとかというのが、もし、あればいいななんていうふうに思いながら、9分ぐらいですかね、今ここでしゃべったのは、まとめにしたいと思います。以上です。ありがとうございます。

(山根副会長) 伊藤部会長、ありがとうございます。

質問や確認しておきたいことは、ございますでしょうか。

(挙手あり)

(山根副会長) はい、志村委員、お願いいたします。

(志村委員) ありがとうございます。志村でございます。今の伊藤さんの部会のほうで採っていたアンケートの集計表というのは、報告書のほうに付いていて、無作為というか、そういう感じでこんなに多く集まったという話だったんです。確かに、その委員の皆さんのネットワークというか、ネットのつながりでということですか。

それは、やっぱり参考までにといい言い方をされましたけれど、この見せ方をもうちょっと、これからできるんだと思うんですけど、グラフにしてみるとか、見やすくなっていくと参考になりやすいのかなと思ったりしました。

これは、ちょっと私も読みづらいというか、ご家族が多い中、私もたしか回答しましたがけれども、あと、女性のほうが、男性の倍も答えているとか、何かその辺でも、また、いろいろ見えてくる

ものがあるのかななんて思いながら、この後、まだこれを繰り返すのか、そういう見せ方を工夫していくのかみたいな見通しが、もしあるようだったら、教えていただければと思いました。

(名川会長) 名川です。二つ聞いたところで、後で話題として使っていただいてもいいんですが、ちょっと気になったのが、相談の部会のほうで挙げられていた仮想の事例だと思うんですけども、彼らが、この情報をどう使えるんだろうというのは、ちょっと気になりました。

それで、恐らく、まず一つは、彼らだったら、どうつながっていくんだろうというところが、一つは、気になりまして、とりあえずは、IPというか、その当初の課題であるお子さんのほうから始まって、どこかでつながるんだろうと思うんですが、家族自身もかなりパワーレスな状態にあるような感じもいたします。

とすると、彼らが望む暮らしというのがあるとして、そちら側ともお付き合いをするというか、彼らの望む暮らしというのを明確にしていきながら、そちらのほうに向かっていくためには、どうつながっていくんだろう、これらの情報やネットワークにというところをもうちょっと知りたいなということと、それから、この情報がいろいろあるのであれば、彼らをここへつながれるんだろうか、あるいは誰かがつなげていくんだろうかというところが気になりましたので、今後の中で、また、検討していただければなと思いました。

以上です。

(山根副会長) ありがとうございます。

では、最初に、伊藤部会長のほうから、志村さんの質問について。ごめんなさい。神作さん、はい。山本さん、大変失礼いたしました。

では、ご回答をお願いいたします。

(山本委員) はい。集計結果をありがとうございます。紙媒体を使われている方、デジタル媒体を使われている方、今現在、その媒体を使われているのが、どういった理由なのかなと思ったところと、あとは、今後、情報を得る際にどの媒体を利用していきたいですかというところで、紙媒体からデジタル媒体にしていきたい人が割といらっしゃる。結構、慣れた情報の方から変化をしようと思うことって、そこそこの理由があるんじゃないかなと思ったので、その理由とかというのも、今後、知れていけたらば、デジタル媒体にしたいんだけど、できない理由というのものもあるんだなと思って。

あと、どういったところに手を入れていけば、情報を得やすくなっていくのかなということもイメージがしやすくなるのかなと思っていました。

以上です。

(山根副会長) ありがとうございます。今二つ、地域生活部会のほうに質問がありましたけれども、お答えいただけてよろしいですか。

(伊藤部会長) はい。まず、グラフ化ですね。グラフ化に関しては、そこまでは、ちょっとやらなか

ったというところで、すみません、何か、これで満足しちゃったというところが実際のところあって、時間もそんなにあるわけではないので、これは、ワーキンググループとか、ぶっちゃけの話、設けていないので、そこまで集計をしていないんです。

これは、はっきり言ったらボランティア的に各部会の委員の方たちが、自分たちで集計をしてくれたのを単純に合計をただけなので、ちょっとそれをグラフ化までしようというところは、ちょっとすみません、行かなかったですね。やったほうが、確かに見やすかったかなというところがあります。

それで、名川先生の話のその「望む暮らし、どうつながっていくの」なんて話に関しては、実は、これは、本当はもうちょっとそういう話をしていたんですけど、そこは、ちょっとここに記載するのやめようということで、やめたところがあるので、来年度のところで、もしかしたら、その部分はちょっと考えようかなというところは、実際あります。

例えば、引きこもりの人の話とか、そういう話も出ていたんですね。その人たちは、どういうふうに情報を得るのかとか、もしかしたら、そこでもう情報を入れなくて、そこは、幸せな場所なのかもしれないとかということとかを含めて、情報が必要じゃないかもしれないということとか、話も出ていたんです。

ただ、ここにちょっと載せちゃうと、個別課題になってしまうので、そこまでは、今回は、載せなかった。私たちの部会というのは、地域生活部会なので、地域全体の人たちを見ていくということなので、個別課題までは、ちょっと取り上げるのはどうかなというところで、一步ちょっと踏みとどまって、やめたという形になっています。

そして、最後の山本さんからの質問というか、話ですね。確かに、そういうところは突っ込みたいとは思ったんですけど、今回のこのアンケートに関しては、実は、本人、当事者の人たちにも採ろうということも踏まえてというところで、もう簡単にしようというところだったんです。

だから、とにかくちょっと見える化、もう少し両方とも使いたいのかなとかという、本当に簡単などころをまず採って、それを大田区の人たちの参考にしてもらえたら、もうちょっと情報収集の大田区の地域で生活している人たちが採りたい内容というところが、大きく分かればいいよねというところだったんですね。結構、実態調査だと、その辺が載っていなかったんですよ。

なので、この部分にちょっとスポットを当てて、どちらなのかなというところを採るというような形を取らせていただいたので、ちょっと細かいところまで、今回は、採らなかったというのが、実際です。

そこに関しては、逆に言えば、大田区の人たちが、これを疑問に思っ、実態調査の中で、もっとちょっと突っ込んでやってもらえればいいんじゃないかというふうに、ここは、僕の私見なんですけど、今の質問に対して思いました。

以上です。こんな感じで大丈夫ですか。

(山根副会長) ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

(なし)

(山根副会長) それでは、防災・あんしん部会、志村部会長、お願いいたします。

(志村部会長) 女性パワー全開の防災・あんしん部会からご報告をさせていただきます。報告書の17ページを開けてください。

専門部会委員のほうは、黒一点が、超忙しい名川先生でいらっしゃるの、主に委員のほうは、私どものほうで頑張らせていただきますけども、発表のほうをさせていただきます。

18 ページにかけて、委員の下に、オブザーバーの参加もいろいろありますけれども、後ほどのまちあるきの中に参加していただいた方も含めてということになっております。

18 ページのほうで、今年度の開催状況について一覧にしております。2回目は、テーマについて話しまして、2回目、つながりのということで、私のほうから福祉社協さんにご縁があったものですから、ぜひボランティアセンターのお話を聞きたいよねと、また、こちら具体的な動き出しがなかったので、情報の一つとしてお話を伺えればいいねという機会をつくらせていただきました。

それから、第3回に5・6年度についての取組みについて考えまして、19 ページのパワーポイントのほうに、こちらの表紙のほうにありますね。大きなテーマとして今、地域支援部会のほうもありましたが、地域生活部会か、ありましたけれども、「地域とつながっていこう」ということが大きなテーマになっています。

それで、防災のほうは、アウトリーチをやっとコロナが落ち着いてきたので、かけていこうという町内の方への連携ができないかな、とか。あと、ヘルプカードの啓発の推進についても、取りこぼせないよねという話をしました。

それで、あんしんのほうですが、今年度、相談支援部会が相談カフェを見事開催されましたけれども、もとはといえば、あんしん部会のほうで提案を、ちょっと威張りますけど、させていただいて、コロナ禍で部会の中だけにやらせてもらったんですけど、それをもうちょっと広げていけないかなということで、計画をして、実施をしていたということになります。

次のページに移りまして、実際に行った「地域とつながる」の具体的な行動について、両地域エリアに分けて報告をさせていただきたいと思います。

それでは、Aグループの発表は、どちら、どなたでしたっけ。

一色さん、はい、よろしくをお願いいたします。

(一色委員) あんしん部会担当の一色と申します。よろしくお願ひします。

まちあるきについては、初めて参加いたしました。まとめて報告をさせていただきます。

Aグループは、志茂田地域です。皆さんと一緒に見てまいります。点検してまいりました。

一番大事なことにして二つございます。石垣、ブロック塀がたくさんあるんですね。そういう所がたくさん見受けられました。

もし、地震が起きて、そのブロック塀が倒れたりすると危ないという部分がありました。古いブロック塀がたくさん残っていたんですね。そういう所が見受けられました。地震が起きた場合、高齢者は、特に倒れたときには、下敷きになって危ないんじゃないかなという心配がございました。それを部会で話し合いました。

二つ目として、新しい住宅、また、古い住宅が混在している地域でもあります。古い住宅など、空き家じゃないかなと思われる所が何件かございました。

もし、空き家の場合、何か起きたときにどうするのかということ、もし、地震があった場合、間違いなく崩れそうな所が、というのがございました。非常に危ないんじゃないかということも話し合いました。今後、そういうのをどういうふうにしていって課題を解決していくのかということも話し合いました。

あと、道についてなんです、広くて安心できる、道も安心できるのかなと思ったんですが、交通量も多くて、今後、また、その交通量、また、道についても工夫が必要ではないかというふうな話し合いをしました。

簡単ではありますが、以上で報告を終わります。

(志村部会長) ありがとうございます。

志茂田地区と書いてあります志茂田福祉センターを拠点に、その地域を回らせてもらいます。今回、発表したものを全部模造紙に作ってあるものがありますので、休み時間でも見ていただければ、ありがたいかなと思います。

では、続いて、Bグループ、今度は、大森東地区になります。福田さんお願いします。

(福田委員) 大田区肢体障害者福祉協会の福田でございます。今からプリントを見ると、Bグループ、大森東地区となっているんですが、南地区じゃないですか。東ですか。はい。

私たちのグループは、避難所のある森ヶ崎公園に行く道の途中で、見通しが悪いT字路がありました。車の往来は、ちょっと困っていて、ほとんど分からないような場所だったので、ちょっと危ないかなと思う場所と、あと、路側帯が一部急に狭くなっている場所がありまして、そこは、ちょうど出ているんですけれども、車道に車椅子がはみ出したりしてしまうという場所があったんですけども、一昨日、確認に行ったところ、直っていました。車椅子1台分、ちゃんと通れるように舗装されておりました。

あと、まち全体的には、自転車とか、ごみとかが少なく、とてもきれいで歩きやすいなというのと、地元の自治会の方と地域の方と大森警察とか、協力関係にあたり、労災病院では、とりあえず訓練、地域の人と密接に何か関わっていらして、とても安心できるまちだなんて感じました。

以上です。

(志村部会長) ありがとうございます。

では続いて、Cグループは、山内さんのほうからよろしく願いいたします。

(山内委員) 大田区視覚障害者福祉協会の山内です。どうぞよろしくお願ひいたします。

私たちグループは、大森西地区を回らせていただきました。大森西地区とはいっても、このさぼーとぴあをスタートして、文化の森の辺り、文化の森の脇の入新井第二小学校を回り、そのまま内川に沿って東邦医大通りを渡り、大森八中を回り、そして、最後、マチノマという所で終わりにしました。

回っている間に気になった点が、ここに写真にもありますように、内川の細くなっている所、JRの線路が下降したというのかな、そちらのほうの所のJRのこちら側にマンホールが一つありまして、そのマンホールの中の真ん中のぶつぶつ空いている穴、何ていうんでしょう、空気穴と言うんですかね。そちらのほうがあまりにも大きな穴で、私たち、視覚障がい者が扱っている白杖がストンと中に入ってしまった、そのまま見失ってしまいます。白杖がなくなっちゃうんですね。ミラクルなのか、魔法なのか、分かりませんが、そういった危険な所があるというところの確認。

それから、もう一点、写真にはないんですけども、今言ったマチノマという所の脇に内川というのが流れているんですが、その内川の側面というのかな、側道というのかな、そちらのほうを歩いていますと、その川に沿った所が崖っぷちみたいになっていて、足を取られます。一応、何か古いガードレールが付いているんですけども、多分、今の道路に舗装される前のものだと思います。

その先に、川とガードレールの間に金網がしっかりあるんですけども、その金網もすごく古くて、弱々しくて、私は、よく夜なんかですと弱視のため、夜は真っ暗で何も見えないのですが、白杖を持ってそこを自宅まで帰るのに歩いていると、よくその崖から左足を取られて、落っこって、足半分傷だらけになって家にはって帰るようなことがありました。すごく危険な場所です。川までは落ちないけれども、危険な場所です。そういった所を点検しながら、皆さんでここが危ないね、あっちが危ないねと言いながら歩いて回りました。

あともう一つは、大森八中の所の正門の前、避難するときに使われる場所なんですけれども、そこが避難所になるんですけども、そこの入り口に段差があったことを初めて知りました。あれは、ちょっといただけないなと思ってしまいました。

あと、良かったことを一つだけ短い時間で申し上げます。途中で内川に沿った所に行く途中に、ファミリーマートというコンビニがありました。そのファミリーマートのコンビニさんの看板が、割と低い所に大きな看板を付けているようでして、高いと落っこってきたとき、すごく被害が大きくなって危ないんだらうな、地震や何かのときに。それが、低い位置にあったので、割と何か安心だなんて、それは、何か感じました。そういったいいところもありました。

以上です。

(志村部会長) ありがとうございます。それぞれ拠点の福祉避難所をご協力いただいて回ったんですけども、Dグループは、私のほうで担当させていただきます。久が原福祉園という、調布地域にあります所を拠点に、久が原地区を回らせてもらいました。

久が原福祉園自体が呑川のすぐ側にありましてね、水が起るとき、福祉避難所として大丈夫なのかなど。まあ、建物自体は高さも結構ある所なので、対策が必要なんだろうねというふうな思いから始まりました。

地形としては、その呑川で穿たれた、高低差のあるエリアでして、とても急な海老川地区でない、反対側の久が原のほうに向かって歩いていきました。松仙小学校という小学校があったり、やはり学校の入り口が避難所として生きてくれればいいんですけれども、バリアフリーがねとか、あと、写真にあります、ここは一時避難所という所、道々橋神社という所なんですけれども、ただ歩いていると気が付かない、本当に車止めなんですけれども、これが、いざ、さあ一時避難所って、最初に集まる場所なので、そこに行こうと思ったら、例えば、車椅子の方であったり、例えば、お年寄りでも車椅子を使われる方もいる。ベビーカーの方ってこれは厳しいかもねって。これは、抜き方とか、一々。本当なのかもしれないけれどという、そういうことがやっぱり不安だねって、そういう思いで歩いてみると、気が付くところがたくさんあるねというような話をしながら歩きました。

また、防災というところで、まちを歩く中で、町会の掲示板などには、今、新しいものではとてもソーラーパネルが付いていたりとか、QRコードで情報が取れるような工夫が外国の方向けにあったりとか、いろいろな工夫が盛り込まれているんだねということが発見できました。

ただ、せっかくだから、裏側も活用できたらいいかもねなんていうアイデアも出てきたりしたんですけれども。

それから、まちの中に消火器ですね。消火器って、とてもいろんな所にあって、それが例えば古びたりすると、点検もされているようなんですけれども、案外、こんなにたくさんあるねというのをたどるようにしながら歩いていきました。

それで、ぐるっと回って、東調布公園が大きな公園の避難所ともなりまして、お手洗いが広かったり、バリアフリーだったり、多機能トイレがあったりするなどというのを確認しつつ、また、ぐるっと呑川のほうを回ってきたんですけれども、呑川には、小さな橋がたくさんかかっているんですけれども、つまり道路が渡っているんです。そこに向かって、斜めに土手が横斜めに上がったり、下がったり、上がったり、下がったりっていうふうになっていて、これは、例えば、目の悪い方、足の悪い方と避難するには、とても不自由だねと。車椅子も一人で押そうと思うと、ぐるっと横に回転してしまうというか、そういうような話をし合いながら戻ってきたのが、久が原地区のまちあるきでした。

遡って、先ほど、オブザーバーの方が参加してくれましたという、こちらのまちあるきのほうに参加してくださった方たちのお名前が載っています。研究者の方であったり、自治会から出てくださった方、それから、災害ボランティアの経験者で当事者の方と歩いてみたいというご希望をお持ちの方、それから、この所管の方などなど、いろんな方と一緒に歩けたことも、私たちもいい勉強になった防災まちあるきでした。

では、こちらでパートの3枚目まで報告を終了させていただいて、来年度の話です。

さて、また出てきた、ひらがなのあんしんというやつですね。これ、なぜあんしんとしたかというのと、権利擁護というのを、遠くは見つめたいんだけど、言葉がちょっと難しいよねっていうことで、あんしん部会となっています。

こちらのカフェの企画については、我がアイドル、蛭子さんのほうから、よろしく願いいたします。

(蛭子委員) 肢体不自由児者父母の会の蛭子と申します。よろしく願いします。心臓、飛び出しそうですけど。

では、始めます。あんしんカフェの検討は、今年度は、2グループに分かれて検討が行われています。まだ、意見を出し合う段階であって、事務局の方には、資料をまとめていただき、ありがとうございます。

あんしんという、今、志村部会長からもありましたが、権利擁護についてのカフェということで、多岐にわたる課題があり、障がい種別によっても、また、違ってくることもあるので、テーマのここに書かれている、「孤立を防ぐために」というところが、まだ、仮のお題となります。

今後、内容については、ほかの専門部会の方からも、ご意見をいただくのもよろしいのではないかと思います。

参加対象者については、自立支援協議会に関わる方々のほかにも、委員推薦団体の方や町会・自治会、社協や民生委員さんなど、地域の関係者、また、福祉に関わる学生さんなどの多くの方にいらしていただいて、理解・啓発のきっかけになっていったらいいなと思います。

定員は、多目的室、ここの定員である90名、ちょっと狭いですが、多くの方に参加していただきたいという思いがあります。

開催方法として、課題によって、初めからグループを分けてしまうという方法もありますが、課題ごとにテーブルを設けて、コーディネーターが常駐する形で参加者が好きなテーブルを選んで意見を、ここには書いてあります。「あなたならどうしますか」。そういったことを問いかけに付箋などで回答を残し、また、新たに、ほかに興味のあるテーブルに向かうような参加方法も、また、いいのではないかなというふうに思います。

付箋で意見を残せるので、今後の課題なども見えてきますし、解決方法なども見えてくるのではないかと思います。

何か終わっちゃった、すみません。以上になります。

(志村部会長) ありがとうございます。将来の展望を語るのに、夢がいっぱいな蛭子さんでした。

それで、ちょうどこのまちあるきが終わった段階で、区のほうでは、防災会議であったり、避難行動要支援者対策連絡会議というのがあったりしましたので、私たちは、こういう取組をしましたということで、次年度に向けてのほうでもありますが、このまちあるきの共有方法などの検討、あ

なたのまちでの当事者も一緒のまちあるき、どうですかみたいな、そんなような方法ってないのかなということを考えていきたい。

それから、あんしんカフェについては、今、蛭子さんが言ってくれたような、まだ、私たちも考え中のもの。

また、今日、ほかの部会の報告を聞いていても、こういうテーマもあるねというヒントもたくさんいただきましたので、その辺を盛り込んで、また、ご意見を伺いながら、展開をしていきたいかなと思っています。

ちょっと毛色が違うのが、やはりまちあるきをした4エリアという、地域を考えて、私たちは動いているというのが常のことなので、また、そちらへの展開ということも忘れずに、考えていければいいかなと思っています。

以上、防災・あんしん部会の報告でした。

(山根副会長) ありがとうございます。質問や確認しておきたいことがありましたら、挙手をお願いいたします。

(挙手あり)

(古怒田委員) 防災・あんしん部会の報告は、すごく具体的で分かりやすくって、役に立ちました。

今、千葉でも、地震が続いていますし、この間、消防のお話を伺ったら、14件、たばこが原因で、大田区内でも火災が起きているとか、そういうことも、これからたばこや何かの問題と設定とか、大切だというふうに思いましたし、やっぱり地震が、いろんな災害のときに、ご近所が知り合うことがすごく大切だと思うんですけど、最近、アパートなんかでも名札を出さない、誰が住んでいるのか分かんない。いろいろDVだとか、事情があったりして表札を出せない人がいるかもしれませんが、最近できるアパートって、ほとんど表札を出さないんですね。誰が住んでいるか、どういうサイクルで生活しているのか分かんない。

そうしたことが、これから、どうやって解決していったらいいのかなってということも、ちょっと課題として気になっています。

(志村部会長) ありがとうございます。

(山根副会長) ほかに、いかがでしょうか。

(なし)

(山根副会長) それでは、3部会からの報告が終わりましたので、ここで休憩の時間を取りたいと思います。すみません、短いですが、35分まで休憩とさせていただきます。申し訳ありませんが、時間になりましたら、お席までお戻りくださいますようお願いいたします。

ネットワーク等にできることは何かという視点で、意見交換をしていただければと思います。

(休憩)

(山根副会長) お手元にワークシートをお配りしておりますので、こちらもどうぞご利用ください。

意見交換の後に話合いの内容を簡単に発表していただきますので、発表者を決めておいていただければと思います。

今から3時35分までお話しをしていただきたいと思います。

それでは、どうぞ始めてください。

(意見交換)

(山根副会長) すみません。それでは、お時間となりましたので、全体共有に入りたいと思います。各部会、5分程度でお話をしていただければと思います。

それでは、早速ですが、相談支援部会のほうから発表をお願いすればよろしいでしょうか。

(神作部会長) はい。共有の時間ということで、相談支援部会の神作です。うまくまとまっていないところがありまして、どうでしょう、ほかの部会さんもそうでしたかね。何か全然まとまってはいないんですけれども、一応、こんな話が出ましたということでのちょっと共有にさせていただければと思います。

相談支援部会なので、まず、地域の部会の方たちからの報告を聞いて、どうだったかというところでは、情報というところに目を向けて取組まれたのが、すごくいいと思いながら、情報の弱者にこれからどのように情報を届けていくのかというようなところも、テーマとしてさらにあると何かいいのかなというような感じの意見はありました。

それで、あと、情報の発信もそうですし、あと、受信するほうが、結局その受信する側の力が、受け取る側の力がどうかによって、特にデジタルになっていったときというのは、すごくその情報が変わってくるのではないかと、あるいはデジタルになればなるほど、例えば、フェイクの情報が出てきたり、情報があればあるほど取捨選択をしていく、精査をしていくという、見極めるという力が必要になってくるので、ちょっとその辺りが少し情報というものの考え方って難しいと思いながら、話をしていたところなんですけど、紙媒体・デジタル媒体に合わせて、やはりちゃんと人と会ってることなんかも、情報という言葉がどうか分からないのですけども、この3部会を見ていて、つながるということとか、連携ということが、何か共通したテーマになっているなというふうに思ったんですけども、その中で言うと、会っていくことなんかもできるのかなというふうなお話しましたので、もしかしたら、それは、私たちの相談部会のほうで取組めることかもしれないんですけども、そのようなお話をさせていただいています。

あと、防災・あんしん部会さんのほうのお話を聞いて、本当に地域によって全然違う情報、状態だったり、地域色というのがすごく強さがあったり、あと、先ほどのお話の中でちょっとここが狭い、段差がないなと思ったときに、次に通ったときに変わっていたというお話を聞いて、やっぱりちゃんと伝えていくこととか、発信していくことというのは大事なんだなというふうに思いました。

このまちあるきのことがすごく良かった、いい取組でしたねという話と、あと、さらに合わせてなんですけど、いろいろな障がいのある方たちにとって、このまちあるきの目線があると、さらにい

いのではないかというお話が出ました。

例えばですけれども、精神障がいの方だったり、長く歩くことが難しい方だったりすると、例えば、こんな所に休める所があるのかとか、最近、至る所のベンチがなくなっているなどと思うと、例えば、そんな休む目線と言ったらいいんでしょうか、そういったこともあるといいなという話はしていました。

それで、今後、部会の中でやりたいことということでは、うまくちょっと私たちもまだ、まとまってはいないんですけれども、先ほども申し上げましたが、その3部会ともに今、つながるとか、私たちは連携という言葉を使っているんですが、すごく似たようなところでの取組はしているなどというふうに思ったんですが、その中でも、その方向性は似ていても、視点がきちんと違う所で考えていけばいいのかなというところでは、私たちは、相談部会ですので、障がい者のその相談という視点の中で取組んでいけば、また、先ほどありましたけれども、その連携ということ、場をさらに深めていくことだったり、あと、もう一つは、このように部会で取組んだこと、あるいはこの協議会として取組んだことをどのように発信していくかというところは、これからのテーマなのかなというようにお話になりました。

うまくまとまってなくて申し訳ありません。皆さん、大丈夫でしたかね。

はい、以上になります。

(山根副会長) 神作部会長、ありがとうございました。

皆様、何かございますでしょうか。

(なし)

(山根副会長) よろしいですか。では、先に進めますね。それでは、地域生活部会お願いいたします。

(伊藤部会長) 地域生活部会、伊藤です。よろしくお願いいたします。

ほかの部会の方の話を聞いて出ていたのは、うちもカフェみたいなのをやれたらいいねというのが、まず1個目だったんですけど、ちょっとそれを話した後に、根本的にうちの部会の名前というか、地域生活部会って名前が大き過ぎて、今後、来年度の問題のことばかりに話が行ってしまっていて、いろいろとほかの部会の所の話で、神作さんも言っていたとおりに、連携とか、そういう話もつながるとかという話も出ていたんですけど、ちょっと何か、整理がしづらいなんていう話を、先ほどしていました。

特に、ちょっと連携という言葉って、実は、いろいろな意味合いがあるので、その辺をちょっと注意しないとイケないねなんて話をしていました。そういうところも踏まえながら、来年度、じゃあ、人という媒体をどういうふうにして使っていかるところを、どういうふうに見ていこうかというところで、もうその話ばかりずっとしてしまっていたので、何ですかね、まとめようとしてもちょっと難しいかなというところなんですよ。

あとは、ちょっと地域生活拠点という話とかも出ていたので、その辺は、ちょっと検討したほう

がいいのかもしれないというところはあったんですが、どちらにしても、私たちは、今日は、いるのが、のみ委員の人がいないので、委員だけなので、本会委員の人だけなので、本会の委員の中だけで勝手に決めることはできないので、来年度、始まったときに、そういう地域生活拠点という話とかも出ているので、その辺も含めて、来年度は、人をどういうふうにやって、媒体として、先ほど、神作さんも言っていた情報弱者の話とか、そういうところも踏まえてというところをやっていきたいというのが、ちょっとまとまりがないんですけど、そんな話で終わりましたというところですかね。

(山根副会長) ありがとうございます。今のお話に何かございますでしょうか。

(なし)

(山根副会長) それでは、先に進めたいと思います。防災・あんしん部会、お願いいたします。

(志村部会長) 防災・あんしん部会です。女子力パワーで、あと、私たちは、当事者ないしはその家族という立場がちょっと違うかねみたいな話から始まりまして、相談支援部会さんの中で、こちらの素朴な疑問を持たれた方がいて、仮想のケースというのがあるんですかね。そのご家族の何を相談したかったのかしらねという、素朴な疑問が出てきました。

息子さんの手帳3度の方のというところから入って行って、扉を開けたら、そういういわゆる複合的な課題があるよなという状況もあるよねという仮想のケースを受けられて、そこからどうつながるという取扱いだったんだろかねという、そんな中で、先ほどの説明にもあったかもだけれども、そんな家族でハッピーよということかもしれないよねとか、もう一步、そこに踏み込んでいく、次の出会いを相談者の相談員ですか、のほうからつなげていくということは、難しいのかしらねみたいな話が、こちらでは出てきました。

そんな中で、さっき言ったとおりの構成なものですから、相談をする人とされる人、立場が違っていると相談という言葉って違って見えるんだろかねという話になりました。私たちが思っている相談と受けてくださる皆さんの思っている相談のずれ。特に、こちら側の防災・あんしん部会に加わっちゃった皆さんなんで、やっぱり地面に足が着いた相談ということが、やっぱりありがたいかねというような話がありました。

同じく連携という言葉に関しても、相談者の方たちがいくら連携しても、私たちがおみそになっちゃ嫌だよねという話が出てきました。意思決定支援の話でよく出てくる話ですけれども、課題を真ん中にして、ご本人も入れたサークルが描けるというのが理想なんじゃないでしょうかねと私も思うんですけれども、実際、現場ではどんなふうなのかしら…というように、悪いとか、そういう話じゃないんですよ。全てを知っているわけではないので、その相談とか、連携ってという言葉についての再確認みたいなことを私たちからも求めて、皆さんと共有できるのが、自立支援協議会なんだろうねという話をさせてもらいました。

それから、アンケートの件については、ぜひ、めげずに頑張っていて、いろんな視点でやって

みていただいて、発見を続けていただくというのもありじゃないかしらというような、ふと、その見える化して、グラフ化とか、そういうことはやっぱりやってもらえるとありがたいかしらというような、私も、ちょっと思いつきで言ったことを思い出して、取り上げてくださった方がいらっしゃいました。

あと、情報については、いろいろな取り方が、ここにいるこの5人だけでも、ばらばらな感じにして、なので、どれが一番いいかというのは分からないけれど、その中で確実に世の中、デジタル化が進んでいってしまって、ピットというのが聞こえないと。バーコードが見えないと。そんなような、私たち、どうするのみたいな。うちの息子らは、レジなしのスーパーなんかできたら、店の物を全部持って帰ってきて、借金を背負うことになるんじゃないとか。

そういえば、切符からパスモになるときも大変だったよねとか、そうやって、皆さん、社会全体が便利になっていくような中に、そうでない部分があるというところなんかも、生活の場面で探していくということもあるのかしら。ユニバーサルデザインとよく言うけれど、便利化していくっていうことだけなんじゃないかねという、そんなようなおしゃべりがあったりしました。

あと、二つの部会で圧倒的に私たちがやっぱり違うのは、今日、発表させていただいたとおり、地域に足をくっつけて、乗っけて動き回ることやってみようとしているということです。

なので、また、今回も福祉避難所の4か所にご協力いただいたように、これからも突然現れて、手伝ってねと言って、その町会の方たちとなるべく、その町会にいるこの団体を代表してきた皆さんが、その町会の方にいる当事者の方たちを引き合わせていけるようなまち歩きの企画も伏線で考えつつ、そんな話題をずっとあんしんカフェでだべくりながら、やっていけたらいいかなと思っています。

今日、ほかの二つの部会からいっぱいテーマをいただいたなど、それが、メンバー全員の感想です。

あと、おまけです。情報ということで、私たちのバイブルのように出している「障がい者福祉のあらまし」の巻末に、ヘルプカードを挟み込んでもらったのは、してやったり、防災部会は偉いぞと思っていましたら、その1個手前に避難行動要支援者名簿同意書というのが挟み込まれていたんですね。ちょっと待って、これ、こうなってくると巻末じゃあ嫌だよねと。ぜひ表紙のめくったそこに、挟まっても付録付きよみたいな感じでうたっただけだったらいいかなという余談も出たりしました。これは、とても大事な私たちにとっては情報なので、そこの整理もよろしくお願いします。

余計なお話までしましたが、ありがとうございました。

以上です。

(山根副会長) ありがとうございました。何かございますでしょうか。

(なし)

(山根副会長) それでは、意見交換と全体協議につきましては、これで終了とさせていただきます。
活発な意見交換をありがとうございました。いただいたご意見につきましては、各部会の来年度の活動の参考とさせていただきます。

最後に、荏原病院の稗田委員、都立田園調布特別支援学校PTAの定森委員、都立矢口特別支援学校の渡邊委員におかれましては、今年度で委員を退任される予定となっております。

本日、ご出席の稗田委員、渡邊委員から一言ずついただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

(稗田委員) すみません。荏原病院のソーシャルワーカーの稗田と申します。

今回、大田区の自立支援協議会に参加させていただいて、何か最初、ほとんど出られないような状況ではあったんですけども、私は、他の区の自立支援協議会にも出席させていただいたことがあるんですけど、非常に何ていいますか、形式的な区もある中で、大田区は、本当に自由に、活発にいろんな意見が出るんだなと思って、非常に何か機能的というか、活動が本当に今、防災・あんしんの方からも、上からこうするというものではなくて、本当に地に足が付いた所からやっていく、大田区自体をもう変えていくというところが、何かすごくすばらしいなと思って、参加させていただきました。

本当に、ありがとうございました。いろいろ勉強させていただきました。

(山根副会長) 稗田委員、ありがとうございました。

では、渡邊委員、よろしくお願いいたします。

(渡邊(優)委員) 矢口特別支援学校の渡邊です。先ほど、私も、今年で終わりということを知ったばかりで、来年も参加するつもりでいたんですけども、委員の方は順番だったというところで、はい、1年間ありがとうございました。

私も大田区に来たばかりで、自立支援協議会に参加することが初めてで、本当にちょっと最初、よく分からなくて勉強させていただきますと言ったら、勉強するという言葉は、あんまり好まないという話もありまして。

でも、何ていうか、皆さんのお話を聞いて、自分の分かる範囲で意見とかを言わせていただいている中で、何となくやっぱりこういう場があって、こういう色んな方が参加されて意見を言うことによって、この世の中というのは、福祉というのは、進んでいっているんだなっていうのを本当に実感することができて、この底というか、いろんな支えている部分の土台とかを良く知ることができたのは、とても良かったなというふうに思っております。

また、何かご縁があるかと思しますので、よろしくお願いいたします。

(山根副会長) 稗田委員、渡邊委員、1年間ありがとうございました。

皆様、ありがとうございました。協議会活動でできたつながりを今後も生かしていただきたいと思います。

私の役割はここまでとなりますので、事務局にお返しいたします。皆様、活発な議論をしていただき、どうもありがとうございました。

(事務局 高庭) 山根副会長、どうもありがとうございました。

それでは、行政からの報告をさせていただきます。障害福祉課、九貫係長、お願いします。

(九貫障害者支援担当係長) こんにちは。大田区福祉部障害福祉課の九貫と申します。よろしくお願ひします。

私からは、お手元に配らせていただいた、このA3判の次期おおた障がい者施策推進プラン(案)概要について、説明をさせていただければと思っております。

このプランを策定するにあたりまして、こちらの委員でもあります、名川先生もご出席いただきまして、ご協力いただいております。ありがとうございました。

では、資料に沿って説明をさせていただきます。

左上の資料、第1章からなんですけれども、まず、基本理念につきましては、現行プランを継承いたしまして、「障がい者が地域で自分らしく安心して暮らせるまちをつくります」とさせていただきました。

次に、基本目標につきましては、上位計画である、大田区地域福祉計画との整合性を図って設定させていただいております。

次に、第2章の所ですけれども、大田区の障がい者の状況と施策の課題となります。大田区の障がい者の状況としましては、過去5年間の推計を見ますと、区の障害者手帳所持者の増加の傾向にございます。

特に、精神障害者精神保健手帳につきましては、5年前と比べますと大体4割程度増えている状況でございます。

また、令和4年度に実施いたしました大田区障がい者実態調査や、前計画の事業評価等に基づき、課題を抽出した上で、大田区障がい施策推進会議や大田区自立支援協議会などで提起された施策課題などを踏まえた上で、次期計画において取り組むべき施策課題を抽出させていただきました。

大田区自立支援協議会では、過去3年間の議題をちょっと見させていただきまして、保健、医療、福祉をはじめとしました多職種連携ですとか、既存の社会資源同士の有機的なネットワークづくりが必要だとか、あとは、障がい者の理解促進のためには、障がい特性の理解を深めるということと同時に、障がいのあるその人自身への理解を深めることも大事だよねというようなご意見。

あとは、様々な機会を利用して、障がい者への理解促進や啓発を進めるとともに、当事者や家族が情報発信を進め、相互の理解を促進することが重要だよねというようなご意見をいただいているのを加えさせていただいたというところがございます。

次に、真ん中の第3章の所になりますが、施策目標につきましては、現行プランから大きな変更はございません。

次に、個別施策につきましては、真ん中の表の右の所のところ、施策目標につきましては、特に四つの個別施策につきまして、現行プランから追加や強化をいたしました。順に説明させていただきます。

まず、1-1-3、人材確保・育成・定着支援の充実になります。福祉人材の質的向上、人材確保が課題となっている点を踏まえ、福祉人材交流センターの機能設置による福祉人材の確保・育成・定着や障がい分野における専門性の高い人材の育成について、記載をしております。

次に、1-6-1、発達障がい者支援の充実になります。こちらは、相談件数の増加や相談から初回面接までの待機期間が課題となっている点などを踏まえまして、保健、医療、教育等の関係機関と協力・連携しながら、地域の実情を踏まえた支援が行えるよう検討を進めていくことや、セルフプランの作成支援ですとか、発達障がい者やその家族に対する支援の充実についてを記載しております。

次に、2-1-1、相談支援体制の充実・強化になります。包括的な相談支援体制を充実・強化していくため、重層的支援体制整備事業を実施し、区民の様々な相談を包括的に受け止めるとともに、分野横断の多機関連携によるチーム支援の強化について、記載をしております。

四つ目になりますけれども、2-2-2、意思疎通支援・情報保障の促進です。令和2年9月に策定いたしました、大田区手話言語及び障害者の意思疎通に関する条例に基づき、手話が言語であることの理解促進や、障がい特性に応じた意思疎通手段の利用促進の取組などについて、記載をしております。

資料右上の所になります。第4章になりますけれども、障害福祉サービス等の提供体制の確保につきましては、国の指針に基づきまして8つの項目について、取組のほか、目標、または見込み等を添えさせていただいております。

私からのおおた障がい者施策推進プランの概要は、以上となります。

(事務局 高庭) 九貫係長、どうもありがとうございました。

それでは、最後に、名川会長から、本日のまとめをお願いいたします。

(名川会長) ちょうど16時でぴったりですね。これで、私が長々と話さなければということですけども。

全体をやってみての感想ですが、いや、これからなのに終わっちゃったなという感じを正直受けています。それぞれからの意見が出されて、多分、やり取りがあっても良かったんじゃないかと思ったんですね。時間がなくてできませんでしたが、それぞれの違いですとか、観点の違いがあって、この全体では、ちょっと意見交換が難しいのかもしれませんが、例えば、これがもっと混交していけば、先ほどの疑問だとか、すれ違いつてこう考えるよねというのが、もっと個別レベルでやり合えたのではないかと思うんですね。

そうすると、もう少し、何ていうのかな、話が進んだかもしれないという意味では、残念だなと

いう気はします。

ただし、私が、何年前でしたか、こちらへ来させていただいて初めての自立支援協議会に参加したときには、それぞれの報告があって、それに対する委員からの2、3の質問があって、それで終わっていたんですよ。それから比べれば、言いたいことを言っているという意味では、面白くなっていますよね。

ただ、少なくとも、単純に報告を聞くよりは、ほかの部会のことを少なからず意識はしたのではないかと思います。いい意味でも、良くない意味はあるのかな。分かりませんが、ほかがこうやっているんだったらどうしようかなとか、ほかの観点の違いがあるんだったら、うちは、こう切り込んでいこうかなということとか、これまで字面だとか、情報、あるいは何となくしか感じられていなかった部会間の共通性とそれから、違いだとかというのを立場を踏まえて、これから、また、取組ができるのではないかなと。少なくともそこは、今回、良かったなと思っています。

だとすると、私が、一番最初に言った、もう少しというところについては、恐らく今後のお楽しみになるのではないかなというふうに思いました。それをやっていただけるのは、恐らく皆さんだと思いますので、それは、私が偉そうに何もせずに期待して楽しみに待っておこうかなと思いますので、また1年、どうぞよろしく願いいたします。今日は、どうもありがとうございました。

(事務局 高庭) 名川会長、どうもありがとうございました。

以上をもちまして、令和5・6年度大田区自立支援協議会、第2回本会を終了とさせていただきます。